

## フィリピン中部台風緊急救援事業の基礎保健緊急対応ユニット（BHC-ERU）派遣報告

臨床工学技術課 石原 健志

平成 25 年 11 月 8 日、フィリピン中部を台風 30 号が直撃しました。レイテ島のタクロバンを中心に、ヴィサヤ地方のサマル州、セブ州、イロイロ州などの多くの地域が猛烈な暴風雨にさらされました。台風 30 号は、中心気圧 895hpa のスーパータイフーンで死者 6,092 人、行方不明者 1,779 人、負傷者 27,665 人、総被災者約 1,608 万人、避難者約 410 万人、損壊家屋約 114 万棟と甚大な被害をもたらしました。

フィリピン赤十字社からの要請を受けて日本、デンマーク、フィンランド、ドイツ、イギリス、アメリカ等々の各国赤十字社が支援を行い、私は 1 月 8 日～2 月 12 日の約 5 週間、フィリピン・セブ島の最北端で展開していた日赤チーム第 3 班の技術要員／事務管理要員として派遣されました。第 2 班の段階で災害関連疾患は減少しており、私たちのチームは最終班として派遣されました。

私は主に日赤クリニックの浄水装置や発電機などの管理と、撤収作業に向けた非医療系資機材の備品目録の作成を担当しました。また 1 月 23 日には堺市立光竜寺小学校より寄贈された折り鶴とメッセージカードの贈呈式を行い、現地の子供たちに手渡してきました。子供達が折り鶴に興味津々に眺めていたのがとても印象的でした。

1 月 31 日に台風 2 号がセブ島に上陸し、要員に外出禁止令が出るなどのハプニングもありましたが、撤収作業も予定通りに進み、無事帰国することができました。





